みんなの文芸

引間豐作選　投稿数25句

松手入鋏鳴らして風を呼ぶ　皆野　関根　助市

(評)松の手入れは、秋に入る頃より深秋に至る迄行われるが、一般に松の外の植木もこの時期で、一番手間のかかるのは松だそうだ。鋏で小枝を剪りそろえ、丁寧に葉をむしって仕上げるには大変根気が必要で、時々地に降りて煙草に火を点けじっくり燻らせながら、枝ぶりや葉の混み具合を眺め再び梯子や脚立に登って作業を続ける。そんな仕事でよく空鋏を鳴らして一瞬考えているのは間違って枝房のひとつでも剪らぬよう慎重になっている時で、気がついてみると心地良い秋風が頬を撫でてゆく。

嵐山雲を走らせて雁渡し　下日野沢　浅見　好一
陽に映えて人目を引くや蜂屋柿　三沢　鈴木　キク
長き夜の我を虜にする一書　下田野　中田　久恵
おしゃべりに時を忘れて暮早し　皆野　中村つね子
柿の実をついばむ目白影揺らす　皆野　根岸　歌子
着ぶくれて拘(こだわ)り働く昨日今日　金崎　設楽　武子
実むらさき源氏絵巻の彩褪せず　三沢　新井　民子
誉められて秋の夜長を一句詠む　金沢　村田　正美
障子より漏れる明かりのあたたかさ　金沢　山口真千子
暮早し家路を急ぐ山の人　三沢　石森　勝子
のぼる陽に紅葉の嶺の輝けり　下日野沢　植木　豊子
盆栽の小さき柿の実一景なす　上日野沢　四方田利男

中田國太郎選　投稿数17首

天を突き龍勢昇る秋祭り焼きそば烏賊の匂い鼻つく　皆野　新井　茂

(評)各地区に伝承される英知を結集して作られ奉納される龍勢の祭りは、珍しくて有名である。作者は、その龍勢を初句で「天を突き」と轟音を立てて秋空に昇る姿を簡潔に表現している。そして、「農民ロケット」を拍手喝采しながら桟敷席で見物している様子を下の句で表現しているのが面白い。読者にまで焼きそばや烏賊の匂いが漂ってくるようである。木下利玄の葵祭りの一首「花傘をはこべる人は力み居りゆさゆさ揺れて花傘が来る」四方田作第四句の「方言聞こゆ」が効き東北農民の姿が浮かぶ。眞下作「拍手やまざり」に山がある。笠原作「水の澄むまで」に詩情あり。

真夜中の道路工事は出稼ぎの方言聞こゆ都会の街に　上日野沢　四方田利男
引き継がれる郷土芸能フィナーレの拍手やまざりふれあいまつり　三沢　眞下　杏子
明日あるを夢うたがはず新米の二合研ぎおり水の澄むまで　皆野　笠原三江子
安泰の絆に余生よろこびの十三人目曾孫生まる　皆野　新井　愛子
遠き日の添ひ寝の母に起されて聞きし鹿の声未だ忘れず　三沢　新井　民子
見物に囲まれ踊る獅子舞の椋社賑わし今日を寿ぐ　皆野　塩田　千代
寒暖の激しき朝夕老いの身は着たり脱いだりみじか日暮るる　金崎　山田　雅子
蘇生もなく日々に失ふ脳細胞を止め置く手立て歌を詠み継ぐ　三沢　新井　叶子
嫁ぎてもやる気十分わが娘サロマ湖マラソン完走に驚く　皆野　金子善次郎
長寿表百才頭に指をさしまだ六十番だと八十路の彼は　下田野　安井　光代
秋晴れやシルバー旅行バスの中歌声流れみんなの笑顔　三沢　横田　龍雲
友だちの誘ひは嬉し懐かしくよもやま話に時間忘るる　下日野沢　浅見　豊子

俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して総務課へお寄せください。

8日必着

1人1句、1首に限ります。

1歳のお誕生日おめでとう

雷樺(らいか)くん
みずほ区
小池　孝章さん
　　美緒さん
いつも、元気な雷ｋｕｎ。
パパとママの癒しだよ♥

心咲(みさき)ちゃん
国神区
浅見　　徹さん
　　綾乃さん
みさきちゃんの笑顔を
見ているだけで幸せいっぱい。

悠斗(はると)くん
駒形区
新井　　亮さん
　　奈津美さん
我が家のラー麺 つけ麺 僕イケメンです。いつも笑顔ありがとう♡

颯良(そら)くん
戦場・土京区
倉林　良明さん
　　麻衣子さん
笑顔で癒やしてくれる颯良♡
元気で優しい子になってね。

※満1歳の赤ちゃんを募集します。1月号の締め切りは、12月10日(水)まで。ホームページからも応募できます。